

今こそ！国労に加入を！

東日本本部青年部入社式行動



発行所
国鉄労働組合長野地方本部
長野市中御所3-2-22
発行者 太田克彦
編集者 宮本 充

2013年4月15日
第1481号

一人の悩み職場の不満
みんなで解決 国労で



4月1日、大宮ソニックシティにおいて、平成25年度JR東日本入社式が行われました。国労東日本本部は青年部を中心に全執行委員・各地方青対担当が20名集まり、地本青年部から4名が参加をして入社式対策行動を行いました。

新入社員に「入社おめでとうございます」「研修頑張ってください」と声をかけ、ティッシュやボールペンを配り国労をアピールしました。「ありがとうございます」と立ち止まり受け取ってくれる人や、支社ごとに集合した新入社員が会場までの移動中に受け取ってくれる人もおり、昨年より多く配ることができ変化を感じました。

今後、新入社員が現場配属になります。各分会で新入社員対策の取り組みを宜しくお願いします。



第2回組織対策会議

各支部からは、支部でも定期的に組織対策会議を開くことが出来ている。組織拡大は、一部の役員だけの取り組みだけでは不十分。若い社員との交流もあるが、遠慮や躊躇することもあり、一歩踏み出して組織拡大とはなっていない。職場での問題などを改善させる取り組みが不足している。会社と国労は和解したとなっているが、依然として差別感がある。など各支部、分会などから組織拡大に対する状況など出された。

今後の取り組みに対して各支部、分会からも意見が出され、リストアップをもう一度取り組む。若い社員との交流を継続させる。他職場、他職種などへ異動する場合、連絡体制をしっかりと行う。今年の新採は少なく様々な状況もあるらしいが、新採対策を各分会でしっかりと取り組む。職場の問題の改善に向け、取り組みを強化させる。また、会社の施策を利用することも必要。出向先のプロパー社員がJRを希望している。対策をするべき。各支部、分会で行事、交流を今後も活用化させるなどの意見が出された。

現在全国の組織拡大では、若い仲間やエルダーの仲間、また社会人採用の仲間など様々な状況での組織拡大が続いている。

今回の組織対策会議を通して、地本としても今後組織拡大と職場の労働条件向上を一体のものとして、今まで以上に地本、支部、分会と連携を密にし、もう一歩踏み出して全組合員で組織拡大をして行くことを確認してきた。

貨物会社 春闘結果

貨物会社は3月18日、「2013年度新賃金引き上げに関する申し入れ(闘申9号)」に対し、定期昇給の実施、14年連続「ベア・ゼロ」、55歳以上1500円の賃金改善措置の回答を行った。

貨物会社に於ける14年連続の「ベア・ゼロ」は、社員・家族の最低限の要求に背向け、厳しさだけを押し付ける姿勢は決して許されるものではない。

さらに社長は、事業計画の訓示を会社幹部及び現場長・指定職社員に対し「鉄道輸送を継続・発展させるために賃金抑制に踏み切る」考えを明らかにした。一方的な賃金抑制は法律違反であり、社長発言は極めて重大なことで見逃すことは出来ない。

組織拡大学習交流会を開催

いいおじさんから、もう一歩踏み出して国労加入を！



加した組合員からの意見交換を行い、最後に諏訪地本書記長の閉会挨拶で交流会を閉じ、団結懇親会を開催した。

交流会を通して地本としても、田中副委員長、そして国労加入した若い平田さんと当該分会の工藤書記長の発言、取り組みに学びながら、お互い元気をだして、明るく組織拡大を取り組む決意を参加者全員で確認することができた。

組織は数が勝負

加入運動を全組合員で



これからは退職者が多くなり、手を拱いているれば国労の組織は減少していく。

本部は闘争指令1号(組織拡大)を発し組織拡大を全国で展開している。各エリアでも頑張ってもらっており、東日本エリアでも実績が上がってきている。

分割・民営化で当時の中曽根首相が「国労を潰せば、総評、社会党がつぶれる」と攻撃した。国労は闘争団・



家族そして組合員の全てが頑張りぬき、JR不採用事件を解決させた。この24年間闘い抜いた国労組織が、何もしなければ自滅してしまつことになる。国労組織の火を消すわけにはいかない。組合員の中で、現状に安住する傾向もあるが、組織は数が勝負であり、多数派をめざさなければならぬ。

歴史的に組織拡大は今始まつたことではない。多くの先輩方が困難を乗り越え、他労組から組織拡大をして国労は多数派になってきた。現在職場に労働運動組合運動がなくなってきた。職場の問題は職場で解決が基本であり、職場の要求はどつなっているか点検しなければならぬ。国労の存在、役割は大きい。組織拡大に特効薬はなく、機関のやり切る決意、一部の役員の取り組みでなく、全組合員で取り組みを行い、質を高める。組織拡大をしても「面倒見切れない」「差別されそう」という声

誘われたら国労に入ろうと思っていた



最初は他労組事を教えてもらい、色々なアドバイスもに所属をしてい受けた。また、公私ともに面倒を見てもらった。新入社員の方には常に問題意識があり、職場の事を教えてもらった。研修中に組合役員がきて、加入真剣に「国労へ来いよ」と訴えてくれた用紙をもってきことが加入につながったと思う。私の「これを書いたら数名の仲間が国労加入した。やはり20代の仲間の加入が必要だ。私自身、組織の減少に不安もある。だから、人をえりかまっていられない」と思っている。

ど参加したが、若手の意見は受け入れてもらえず、意見を言ううち打ち消されてしまつていった。職場の中の国労の方は仕事をよく教えてくれ、また人間的にも親しみやすかった。こんど誘われたら国労に入ろうと思っていた。22歳で国労に加入してからは、他労組の役員が接触しようとしていたが、国労の分会がガードしてくれており、特に揉め事や呼び出されるような事もなかった。国労の方に仕

平田景一さん(国労西日本吹田機関区)

組織拡大はあきらめたら終わりだ



もあるのも確かだが、様々な状況を組織で対応していく。職場で国労はいいおじさんになっていく。もう一歩踏み出して、「国労に入れ」と言うことが大切。拡大目標は高い数字がもしれないが、今やらなければ、毎年毎年困難になっていく。JR各社は更なる効率化をしていく。労働者は団結して要求を実現させることが必要である。現在全国で様々な状況から国労加入が続いている。今後とも会社の動向、他労組の状況に注視しながら、大胆に「国労加入」を全組合員で訴える。

地域の組合との交流や学習会に参加してもらった。国労とは何か真剣に訴えてきた。どこもそうだと思うが、始めはサークルや旅行、飲み会などで交流してきた。職場の問題点の改善は国労だから出来る。私達分会も平田君を加入させるにあたって、時期の問題などで遠慮や躊躇したこともあった。これからも、本気で国労加入を訴えて行く。加入用紙を直ぐに書いてもらおうと思つている。私自身平成探だけでも、断られ、無理だと言われ10年かけて国労加入してくれた仲間もいる。あきらめたら組織拡大はできない。

工藤隆志(国労西日本・大阪貨物分会書記長)